



通信

HP 学校だより
R6. 9. 19
NO. 20
文責 伊藤美佳



体験活動を通して

2学期に、校外学習に出かける学年は多いです。まだまだ暑いですが、先週から校外学習に出かけている学年があります。

5年ぶりに給食センターの見学に行くことができた3年生は、ナスの搬入も兼ねていたため、食材がトラックで運ばれるところも見ることができました。幸田町の小中学校9校分の給食を作る様子を近くで見たり、実際に使っている道具を使わせてもらって混ぜる体験をさせてもらったり、多くのことを学んだ貴重な時間を過ごすことができました。実際に見せてもらうことができなかつたり、時間がなかつたりした場合は、ビデオで見たり、お話を聞いたりして学ぶこともあります。しかし、実際にその場に行って、実物を見たり、その場の雰囲気を感じたりすることで得られる学びとは比べものになりません。また、子どもたちが体験を通して学んだことを「ありがとうございました」の気持ちを込めて見学先の方たちに伝える経験ができるのも、校外学習の良い点だと思っています。こうやって、人と人が出会ったり、関わったりすることが子どもたちの成長には欠かせないものとなることでしょう。



2年生は「町探検」に出かけています。その中で、50円を持ってきて、自分で買い物をするという体験をしています。中には「初めて自分一人でお買い物をした」「買い物をするのは楽しい」といった感想を教えてくれる子もいました。50円で自分の買いたいものを選択しながら買えた経験を通して、子どもたちがとても誇らしげな顔をしているのに気づきました。体験や経験は子どもたちを大きく成長させてくれています。

慣れるということ

暑くなる時期が早まり、5月、6月には体調不良を訴える子が多かったです。そんな1学期を経ているので、夏休みを過ぎても酷暑のままで、外遊びもできない日が続き、子どもたちの体調不良が増えるのではないかと心配していました。

ところが、そんな心配はどこ吹く風で、子どもたちはとても元気に毎日を過ごしています。休みも少なく、熱中症かもしれないと心配する事例は少ないです。

暑さに慣れなかった5、6月は、すぐに体調を崩していた子どもたちが、暑さに慣れて戻ってきたので、以前よりも適応しているのではないかと考えました。「慣れる」までには、苦しかったり、大変な思いをしたりするけれど、徐々に慣れていくことで、ちゃんと順応していける子どもたちに感動を覚えるとともに、これは体だけではなく、心も同じかもしれないと思えます。